

メンタルヘルス不調者のリワークプログラム参加前後の内田クレペリン検査結果の比較

224J2003 北野 来実

Kurumi Kitano

指導 種市 康太郎 教授

Thesis Supervisor: Kotaro Taneichi

国際学術研究科国際学術専攻心理学実践研究学位プログラム 臨床心理分野

Master of Arts Program in Clinical Psychology Master's Program in International Studies

International Graduate School of Advanced Studies J. F. Oberlin University

【問題】近年、労働者のメンタルヘルス不調は我が国において深刻な問題となっている（厚生労働省, 2023）。多くの労働者が職業生活において強いストレスを抱えており、メンタルヘルス不調により長期の休業や離職に陥っている現状がある。これを受けて、職場復帰のための実践的な準備や訓練を支援するプログラムが推奨されている（日本産業衛生学会関東地方会, 2017）。

リワークプログラムの効果を評価するにあたっては、復職準備性の観点から、労働者がどの程度、業務遂行能力を回復しているかを把握することが重要であり、労働者の業務遂行能力が職場復帰時にはいまだ病前のレベルまでは完全に改善していないことも想定されるため、復職の可否を判断する際には、職場の受け入れ態勢とあわせた多面的な評価が求められる（厚生労働省・独立行政法人 労働者健康安全機構, 2024）。復職準備性を評価するものとして、PRRS（復職準備性評価スケール）があり、復職準備性を把握するための評価指標として広く活用されているが、特定の業務遂行能力の要素の評価としては限界があり、作業量、集中力、持続性、疲労などを測定し、評価する指標が必要とされている。PRRS では評価しきれない側面を補い、総合的な復職準備性の指標として、内田クレペリン精神検査が注目されている。

しかし、これら内田クレペリン精神検査（以下、UK 法）を用いた先行研究はいずれもサンプルサイズが限定的であり、基準となるデータの蓄積が不十分である（川越・黒川, 2014）。また、年齢や性別といった属性ごとの反応の違いについても十分な検討が行われていない現状にある。

【方法】A 診療所にて、2019 年 9 月から 2024 年 3 月までにリワークプログラムに参加したメンタルヘルス不調者、22 歳から 62 歳の男女 127 名を対象とした。

検査には UK 法を用い、誤答（3 行）、訂正（3 行）、行飛ばし、平均作業量、平均作業量（前期）、平均作業量（後期）、後期増減率、曲線偏差量（PF）、補正した曲線偏差量（補正 PF）について分析を行った。

【結果と考察】リワークプログラム参加前・参加後の比較では、平均作業量、後期増減率、行飛ばしにおいて時期（参加前・参加後）の主効果が有意であった。これはプログラム参加により作業量が向上し、正確性が高まったことを示しており、UK 法が PRRS 等の質問紙法では捉えきれない業務遂行能力の回復を測る客観的指標となり得ることを示唆している。参加期間（短期・長期）および性別による比較では、いずれも交互作用は認められず、時期の主効果のみが有意であった。これは利用期間の長短や性別に関わらず、必要な期間を経て復職に至ることで、等しく一定の改善効果が得られることを示している。

年齢による比較では、行飛ばしにおいて交互作用が認められ、特に低年齢群において参加後に有意な減少がみられた。これは低年齢層における「速く作業をこなさなければならない」というプレッシャーが軽減し、着実な課題遂行が可能になったと考えられる。若年層の支援では作業量だけでなく正確性への留意も必要である。一方、参加期間と曲線類型の関連は認められず、曲線類型は期間によって変化しにくい特性であることが示された。

本研究では先行研究の課題であったサンプルサイズの不足を克服し、127 名という規模で分析を行ったことで、UK 法による評価の統計的な信頼性をより強めたと言える。これにより UK 法の定量的データを用いることで、集中力や体力の回復という判断基準に客観的な根拠を持つことが可能となることが示唆された。

参考文献

- 川越 隆・黒川 淳一・住友理工株式会社 人事ヘルスケア室・愛知医科大学医学部衛生学講座・犬山病院精神科 (2014). メンタルヘルス不調者の復職支援における内田クレペリン精神検査の活用 内田クレペリン精神検査研究誌, 4, 15-20.
- 厚生労働省 (2023). 令和 4 年労働安全衛生調査（実態調査）の概況 Retrieved January 8, 2025, from https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/r04-46-50_gaikyo.pdf
- 厚生労働省・独立行政法人 労働者健康安全機構(2024). 改訂心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き Retrieved January 8, 2025, from <https://www.mhlw.go.jp/content/000561013.pdf>
- 日本産業衛生学会関東地方会 (2017). 科学的根拠に基づく一産業保健における復職ガイダンス Retrieved January 8, 2025, from <https://jsohkant.umin.jp/misc/3HP/guidance.pdf>